

令和3年度第3回 京丹後市文化財保護審議会

- | | |
|--------|---|
| 1 開催日時 | 令和4年3月23日（水） 午前10時～11時30分 |
| 2 開催場所 | 京丹後市大宮庁舎第2・3会議室 |
| 3 出席者 | 藤田泰弘会長、足達礼三郎副会長、田中光浩委員、尾崎容樹委員
澤吉博委員、松尾秀行委員、芝野吉実委員、水口政弘委員、
畑中順二委員、小西安子委員 |
| 事務局 | 松本教育長、引野教育次長、新谷課長、岡林係長、關主事 |
| 欠席者 | なし |
| 傍聴人 | 0人 |

4 内容

1 開会

〈事務局〉

皆さんおはようございます。令和3年度第3回京丹後市文化財保護審議会を開催します。最初に教育長よりご挨拶をいただきます。

〈教育長〉

本日は、令和3年度の第3回の文化財保護審議会に、何かとご多用のところご出席賜りありがとうございます。

新型コロナに関しては、昨日、まん延防止措置が解除されましたが、市内で感染者がまだ出ている状況のため、十分な対策をとりながら事業を進める必要があります。

また、現在、開会中の京丹後市議会3月定例会では、9～11日に代表・一般質問がありました。文化財関連では、網野銚子山古墳の整備・活用、峰山大宮道路建設に伴う埋蔵文化財調査、旧口大野村役場、参考館、アベサンショウウオ、文化財保存活用地域計画、市史のほか、丹後震災から95年を迎える中で、次の100年に向けて丹後震災記念館の改修や、伊藤快彦氏による油彩画の保全についての質問がありました。これまでと同様、中長期的な視点を見据えた文化財の保存・活用を進める必要があると考えています。

さて、本日は、年度末を迎えました令和3年度の事業報告のほか、現在、策定作業中の京丹後市文化財保存活用地域計画の状況を報告させていただき、今回の計画の肝となる京丹後市の歴史文化の特徴について、委員の皆様のご意見をいただきたいと考えています。

本日も、多くの内容をご審議いただきます。どうかよろしく申し上げます。

<事務局>

つづきまして会長より一言お願いします。

<会長>

皆さんおはようございます。なんとかです。ね。蔓防が解除されましたけれど、まだまだ教育長がおっしゃったとおり市内では色々な事がございます。そういう中で迅速に会議を進めていこうと思います。

市におかれましては、丹後震災95年でその特別展もやっていただきました。

それから三重郷土史刊行100年が今年の5月になります。そういうことも見据えながら、タイムリーに色々な事をやっていただいているというふうに思っています。改めて敬意を表させていただくと共に、なんとか今日有意義な会義にしたいと思います。ご協力よろしくをお願いします。

<事務局>

ありがとうございました。以下の議事進行につきましては会長にお願いしたいと思います。

<会長>

議事1、令和3年度、本年度の文化財の関係事業についての報告をお願いします。

(議事説明)

<会長>

ありがとうございました。質問等ございましたら。どうぞ。

<委員>

これは令和6年の完了予定という事になっていますが、この後円部の整備計画は分かるのですが、銚子山古墳に行くまでの、例えば府道に看板をつけるとか、網野駅にPRコーナーを作るとか、周辺のPR、一般の方がどのような順路を通過して銚子山まで行けるかという辺りも含めて、令和6年度の完了に間に合うようにして頂けると良いかな、と思いました。以上です。

<事務局>

ありがとうございます。そういった所も含めてまた検討させて頂ければと思います。

<会長>

他にはございませんか。随分、ここの所見晴らしがよくなり、古墳だというのが分かるようになりました。多分、皆様方におかれましてもそのような思いだと思います。なければ、次にいかさせて頂いてよろしいですね。では議題の2へ進めさせていただきます。事務局よろしくをお願いします。

(議事2 事務局説明)

<会長>

はい、ありがとうございます。

歴史文化の特徴に基づいて課題を示し、その課題に対してアクションプランを立てるという今後10年間の、文化財行政、活用についての大綱になりますし、なおかつ我々の審議会の意見が、反映できる機会は今ですので、最終案までの段階でもう1回あるということにはなりますが貴重な機会ですので是非多くの意見を頂戴して良いプランに仕上げようと思います。どなたかからでも。

<事務局>

補足をさせていただきますと来週30日に文化庁のとの協議があります。文化庁にはこの資料を提示しております。それに対して文化庁のご意見をちょっと待っていただく機会がございます。その後、それを踏まえて修正をかけることになってくると思うんです。次の文化財保存活用地域計画協議会が4月25日を予定しております。今日まずご提示をさせていただいて、この場でもご意見いただければと思いますけれど、後で気づいたと言うようなことがもしあれば 後々またご意見を頂いてもまだ反映する機会がございますので、今日、この場でもご意見をいただければと思いますし、後でという場合もまた事務局までお知らせいただければと思っております。

<会長>

リミットはございますか。

<事務局>

4月8日に保存分科会ということで、府立大の先生方と協議をする機会がございますので、そこには持っていけるとありがたいと思っております。できましたら来週のうちでしたらありがたいと思っております。

<会長>

ということでこの場、その後でも4月8日にその場に持っていけるだけの時間的な余裕を与えていただいて、意見が表明されてありがたいということで、この場で若干の時間もございますので、どんどん行ってください。どうぞ。

<委員>

意見というほどではないですけれども、網野に関係するところを見ていたのですが、70ページの写真の上から二つ目で、港に通じる網野町三津とありますけれども、これは絶対に三津ではありません。掛津と言うか、行政区名で言うと遊、昨日見に行ってきた、ここで間違いないかどうか。遊です。三津は僕の故郷ですが、この景色はどこから見てもないので、これはもう間違いなく遊です。

それから76ページ、静御前の説明の所で、網野町の網が抜けています。

<会長>

私の方から、76ページの羽衣天女、乙女神社、たしかに大路なんですけれども、行政区名として大路は独立してますか？鱒留ではないですか。

<事務局>

確かに大字地名では鱒留です。地名表記は他でもこのケースがあります。どちらで

統一していたか確認をします。通称名は大路ですが、住所表記は確かに鱒留です

〈委員〉

今聞いていたのですが、私の言えることは、弥生時代の前期から中期にかけて、丹後は日本の完全に入り口だったと、文化は西から入ってきたと、その一番基本になる場所だと言うことは言い切ってしまうと思います。それに対応する資料も全部あります。今日偶然なのですが、これに関連するものをコピーしてもらったら、それによっても説明できますし、古代における丹後は日本の入り口だったという理解まで出来ると思います。それについても資料を見ながら説明もしていけると思います。丹後と言ってもこの竹野川を流域とするところと、野田川を流域とするところと、地層というのは変わっていますので、その辺りは生産の場所とか、流通の場所とかに分けていかなければいけないと思っております。コピーをして皆さんにお渡しできると思います。作ったのは本当の偶然なんですけども、こういった話に繋がっていくのではないかと思います。以上

〈会長〉

はいありがとうございます。私の方から補足の質問なんですけど、74ページのいわゆる「丹後王国」を、弥生時代の後期から古墳時代の中期というふうに時期を区切って、最大公約数的な表記がされてるというふうに考えてよろしいでしょうか。もうちょっと広くとらないとダメという意味でおっしゃったのでしょうか。

〈事務局〉

弥生時代の評価に関わって、古代丹後王国ってどんなふうに、もう少し広く取った方がいいのではというご意見だと思います。この辺りは協議会の専門の委員の先生にもご意見頂いて、この表記にさせて頂いています。一方、これまでから委員が途中ケ丘遺跡、扇谷遺跡の鍛冶滓などから製鉄があったというお考えをお持ちということで、それが花崗岩地帯にあり、プラス、陶けんの分布と合うというご意見かと思えます。ただ現在の学術的な面で行きますと、その辺りの年代感に関して疑問が呈されていて、エビデンスが得られるようになると、どうしてもこの表記にならざるを得ない、という風に考えています。一つのお考えということで、このストーリーの中ではあげられないんですけども、このストーリーを作る前段階として、第1章・第2章の部分で歴史文化の現状等々についての概説をする部分がございます。そこに一文入れさせていただく、という対応でさせて頂いただけるとありがたいなという風に思っております。

〈会長〉

はい、分かりました。ありがとうございます。私からですが74ページ、二つございます。一番上の門脇禎二による王国論、この項目の最後に、丹後王国があったと提唱されました。「されました」だけ敬語が使われているんです。違和感があり必要ないという風に思います。それから巨大古墳の写真があります。これが古墳だっというのを我々は分かります。でもこれわからないので例えば赤で囲うとか網をかけるとか、古墳の部分をもう少しイメージしていただくような表示にできないかなと思います。

それから網野銚子山古墳は、小さすぎます。もう少し大きくできないですかね。技術的な問題です。

〈事務局〉

おっしゃることはよくわかりますが、写真に加工を加えるのはあまり良くないのかなと思います。銚子山の関係につきましては、日本海との関わりを強調したいので、あえてキャプションに日本海を入れています。小さくなっていると言うのはご指摘の通りなんですけれども、巨大な古墳であるというのが第1章の内容の部分で触れておきまして、大きさ等々には触れておりますので、この少ないスペースではなく、前の部分に譲って、ここではどちらかという視覚的に海との関係が分かる部分を強調したいために、このような使い方をしています。神明山古墳は前方後円墳であることが分かるので、なんとなく形は分かるのですが、黒部銚子山古墳は、どこまでが前方部かというのが分かりにくいのは事実です。出し方としてはこれしか方法はないかなと。測量図にすると、分かりにくいですし、図面だと確かに前方後円墳の形は分かるのですが分かりにくいというがあるので、どうしても写真であらわすしかない、横からだ山にしか見えないのでどうしても上からの写真になると、もうこれしかないというところで大変申し訳ないと思います。

〈委員〉

72ページのところです。災害の歴史と記憶云々で、非常にコンパクトにうまくまとめて頂いていると思うんですが、一つ私が目に留まったのが三八豪雪の影響というところです。こうしてわざわざ三八豪雪のことを記述して頂いておるのですが、これだけですか。

〈事務局〉

第1章の部分で少し触れています。ここで何が言いたかったかと言いますと、丹後半島東部の地すべり地形が多い火山岩地帯のところで、小さな村がたくさんあるわけです。三八豪雪以前から離村をはじめていましたが、三八豪雪が経緯になって集団離村が起こったというところがありました。その部分を入れたいと思いましたが、この話を入れています。

これが1の1の丹後半島の地質の部分の話とつながる所です。これだけの書き方になっておりますが、実際には2か月ほどで全然誰も近寄れなかったとか、ヘリコプターで救助したとか、救援物資が運ばれたなど、色々な事実があります。ここでの書き方はこれぐらいにさせて頂いております。

〈委員〉

私も離村の集落にちょっと関心があって、現地を色々と訪れたりして見てるんですが、その三八豪雪のその離村の集落、例えば味土野であるとか、それとか住山であるとかは特に丹後町・弥栄町の山間部に離村廃村のところが多いですが、せっかくここに地図があるので、こっちに全く三八豪雪の影響を受けたようなところが全くないので、象徴的な部分だけでも、記念碑があるところなどを書き加えられてもいいのではないか、というようなことを思ったので、申し上げたということです。

<事務局>

その視点は全くなかったところです。離村した村の場所は分かってますので、その中で離村した集落とかの調査というのもしなくてはいけないという所を入れる必要があると思っていました。ご指摘は地図の上で反映させ、代表的なところだけでいいと思うんですけども、力石のように碑が立っているところを入れたいと思います。

<委員>

結構記念碑なんかも残ってますし、村落のあとに。どういう意図があってこういう書き方にされたのかということがお伺いしたかったです。

<事務局>

どちらかという震災の話ばかり地図の中に出ているので。

<委員>

せっかく災害となっておりますので。気づいたんです。

<事務局>

ありがとうございます。そのあたりは修正かけたいと思います。

<会長>

昭和11年の豪雪は。

<事務局>

昭和11年の豪雪は認識ができてなくて、全く触れてないのは事実です。触れるとしましたら前段階の第1章の現状の把握のところ少し触れるのかなという所です。第3章は、72ページのところ、冬季の積雪が多いというのでも一言を出しておりますので、その中に大きく含んでいるというご理解で良いと思います。

<委員>

76ページ、7人の女性にまつわる伝承のところ、細川ガラシャ夫人隠棲地という風になっているんですけど、これはあそこの石碑には書いてあるのは細川忠興夫人隠棲地、これが正解じゃないかと思うのですが、あえてここでガラシャにしてあるのはガラシャの方が通りやすいということでしょうか。正確さを出すのなら、忠興夫人が正解ではないかという風に思います。それは後でまた考えてもらったらいいです。その下に麻呂子親王の鬼退治がありますね。その2行目に、「とうがくじ」縁起になっていますが、「とうらくじ」じゃないんですか、ルビが打ってあるので非常によく目立ったので指摘をさせて頂きました。

それから80ページ、2項目の絹屋佐平治のところですけども裏から3行目に、金毘羅さんの境内社の「きしま」神社になっているんですけど、これは金毘羅さんが木島神社と呼んでおられますか。僕の認識としては勸請したのは「このしま」神社というふうに思うんですけども、これは金毘羅さんは木島神社というふうには呼ばれているのですか。そのへんがよくわからないと思ひまして。

それからの石像、その横の狛猫の石像があります。これは写真を見たら「阿吽」かなと思うのですが、これ「阿吽」が果たしているのでしょうかね。例えば「阿吽」として造られたものか、これは作られた年代もたぶん違っていると思うんですけど、何

かここも違和感があるな、という風に思いました。

それから84ページ、冬の祭りがありますね。丹後町宮の竹野神社で繰り広げられる鬼祭、これ現在は鬼祭をされているかどうかの確認をされていますか。どのような祭りをされているかという確認、されていますか。じゃいいです。実際にやられているのであれば。私の方からは以上です。

<事務局>

五つほどありました。1点目、細川ガラシャ夫人隠棲地は指定名称にあわせています。2点目、「とうがくじ」は間違いです。「とうらくじ」です。3つ目、木島神社、これは水口委員のおっしゃられる通り、京都市内の「このしま」神社を勧請してるんですけども、神社では「きしま」神社と言っておられるんです。これは宮司さんに確認しております。4つ目、「阿吽」が必要かというところは、確かにいらぬような気がします。鬼祭はお聞きしましたら、昔のような形ではやっていないけれど、祭礼行事としてはあります。というふうにお聞きしています。以上です。

<会長>

ありがとうございます。私の方から、80ページです、真ん中ぐらいに丹後織物同業組合が設立されという風には書いてあります。これははっきりと去年でちょうど100年ですよ。大正から昭和の戦前期っていうふうに、なんでこんな風にぼかしたですか。ぼかす必要ないでしょう、きっと。

<事務局>

後ろの国練の実施まで含めて書いているため、ぼかして書いているだけなので、それぞれ何年何年で書けば確かにその通りです。国練は実際に始まるのは、丹後震災後だったかと思しますので、同業組合は大正12年に設立されています。分けて書けば確かに。

<会長>

どなたでも結構ですよ。

<委員>

たくさん書いてもらって、これ何が目的なんかな、何を伝えようとしてられるかなって、まず第1に思うことと、何を読めというのか、観光客なのか、それとももうそれに詳しい人に対しての要求に応えるために書かれているのか、京丹後市が非常に広いこともあって、わかるのですがその辺りをということ。

例えば京極さんの墓所なんかでも、観光客が入っていい場所なのか、お寺さんに断りをしないとイケないのかというようなことや、それに対して説明板か何かそういうことを作っていただけるのか、そう言ったことがこれだけあると大変な作業になると思うんです。そういったことがないと、ただ言っただけでは全く分からなくなってしまうのではないかと、というようなことを感じました。

<事務局>

二つあったかと思えます。最初の誰のためかというところですが、今回の計画というのは今までのように所有者とか文化財の専門の方とかそういった方が見るだけでは

なくて、様々な分野の方に見ていただきたいという思いがあります。協議会の作り込みもそういった商工ですとか観光関係、ガイドさんの団体だとかそういったところを含めて協議会を作らせていただいております。そういった文化財以外の分野の方がご覧になられて、こういう特徴があるのか、それで私達はこういう使い方ができるなっていうようなヒントになるような、そういう道標になるようなものというのが、この第3章の歴史、文化の特徴と考えております。協議会の中でも、商工関係・観光関係の方にもご覧頂いております。文章表記は難しいけれども、このストーリーを読んでいくと、人から聞いた話はこういう風な位置づけができるんだという気づきになる、ということを書いていただいております。何となく思っているものが目に見える形になっていると言うご意見は頂いております。そういった観点でこの資料はご覧頂ければなという風に思っております。

1回目の審議会の時にもご説明をさせて頂いたかと思うのですが、今までは単体の文化財の指定など、物に対しての説明をしてきていたのですが、総合的に見た場合にどうかという、未指定の文化財まで含めて総合的にどうか、というのが今回計画の中で一番課題になっている所なんです。そういった所をこの歴史、文化の特徴という所で、ご覧頂けるようにというのが、今回の主旨という事であります。それが一つ目です。

実際現地に行っているのかという事なんですけれども、行く際にこの3章のストーリーをまた分かりやすいような、ホームページ等で公開するとか、小冊子を作るとか、そういった事をしていかないといけないだろうな、というのはあります。それをご覧頂きながら、現地を訪れるというような事で行ければいいなという風に思っております。案内看板の設置という所でいくと、確かに追いついてないのが事実で、指定文化財が全部出来ていないというのが正直な所でございます。それでこの未指定まで入ってくると、沢山になるのは事実なので、そういった所は看板では追いつかないのでこういったものを、ホームページで補っていくというのが一つの方法かな、と思っております。

<委員>

そうでしたら、もっと最初の出だしを絞り込むとか、そういった様にして増やしていくというような感じでやられるとか、最初から全部ひっくるめてこういう形にすると、読む方も読みづらいですし、来る方も絞られてるとそれが目的になるし、という様なそんな事をちょっと感じるんですけど、何もかも全部見せられると・・・。

<事務局>

地図などで載せさせて頂いているのは、大分絞っています。ただ確かに多いのは事実です。京丹後市の場合、特定の地域だけではなくて、やっぱり市全体を見て、特徴を指定すべきかなと捉えまして、ちょっと広域の所で実際に廻るとなると、中々大変かなと思うのですが、作りこみとしては、このような作りこみのやり方でさせて頂いているという事でご理解頂ければ有難いと思っております。

<委員>

最初の68ページの所の1-1の所の、今も残る日本海形成に伴う地球の営みという所、日本海形成の時期は数字で、大体2500万年から1500万年という、それを入れた方がちょっと、イメージとしていつ頃の事かというのが、はっきりするかなというのが1点と、69ページの写真が二つある左の大成古墳群と立岩の写真ですけど、立岩が写ってませんね、これ。いや奥の方にある、これ多分行者岩の方で立岩はもう少しこちらじゃないかな、と思いますけど。

<委員>

立岩じゃないですね、これ。行者岩のような感じです。

<委員>

ないですよ。だからこれもう少し右の方にあるんです、立岩。角度的に。だからこのアングルでは立岩は写ってないと思いますので、訂正してもらったら、どうかなと思います。以上です。

<事務局>

年代の所は確かに入れるスペースあるかなと思いますので、数字だけ入れれば確かに説明追加出来ます。

<会長>

年代についてもかっこで入れて頂く方向で考えて下さい。

皆さん他に？では一旦ここで、この問題は切りまして、後は4月の8日位を目処に、個々の意見でここはどうだ？、あるいはこういう風に書いてほしいという事がございましたら、文化財保護課の方へ自分で行って頂くという事でよろしくお願い致します。

(議題3 指定文化財 非公開)

<会長>

その他ございましたらお願いします。

<事務局>

事務局からは特にはないですが、先程の地域計画の関係につきましては、ご意見ございましたら4月の第1週位までの間に頂けると、8日の保存部会の方で反映させて頂けるかなと思いますので、お願いしたいというのが一つです。あと、先程ご説明さしあげましたように、7月上旬位に審議会の方確実に一回させて頂きたいと思っております。その際に今日の計画の全体をご覧頂くような事になるかと思っておりますので、その時はもう少しボリュームがありますので、早めに委員の皆様にはお送りしてご覧頂ければと思っております。その際は様々な意見をまた頂ければと思っております。

<会長>

よろしく申し上げます。今度送る時はボリュームが太いもの出来る、事前に読んで頂いて審議会を迎えようと思っております。という事で議事はとりあえず、これで終了という事にさせていただきます。では、副会長、よろしく申し上げます。

〈副会長〉

ご苦勞様でした。色々と審議して頂きまして、短時間ではありますが、非常に濃密な議論をして頂きましてありがとうございます。これを持ちまして終了したいと思います。どうもありがとうございます。どうもご苦勞様でした。